

## 北九州PCB処理事業所トラブル事象一覧（平成31年2月～令和元年6月）

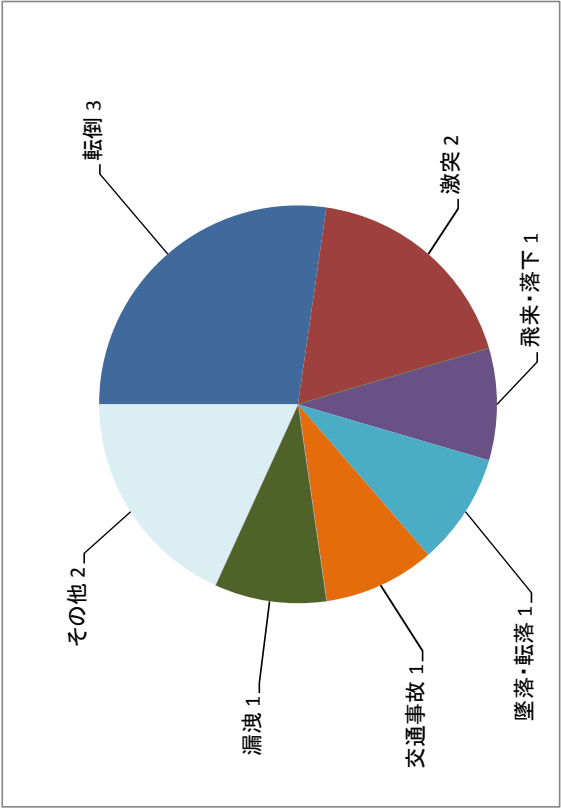
No.	発生日時	発生場所	概 要	対 応 状 況
1	2/9-7:42 2/11-9:52	2期3階 VTR-A号機 同 VTR-B号機	処理完了で炉蓋を開放した際、炉内内側、内部ドア下及びドア下に設置したオイルパン上に油の少量の漏れを発見。	漏洩した液を拭き取ったところ、漏洩液には水分が含まれていた。同一保管事業者からの処理物(素子等)をVTR処理した際に、処理物内に水分を含んでいたため、冷却時に結露したことによるものであった。同一保管事業者の同様の処理物に対し、処理時間を延長して対応した。その後の再発はない。
2	3/14-8:50	2期1階 中間処理エリア 充填用ドラム準備缶置場	充填用ドラム準備缶(空ドラム)の置場を整理中、ドラム缶を移動したところ、防油堤敷鉄板上に油の少量の漏れ跡を発見。	漏れ跡を拭き取りドラム缶底部を確認したところ、ピンホールを発見。当該缶の履歴を確認したところ、VTR回収木酢液槽のスラッジをろ過した液を4日間入れていたため、残液により腐食したものであった。 応急措置として、当該ドラム缶及び同様の使用履歴を有するドラム缶7缶(計8缶)をドラム缶用外袋で養生し、翌日に切断処分した。 VTR回収木酢液槽のスラッジのろ液など酸性の液体をドラム缶に充填する際は業務連絡書により内袋を使用することとしていたが、ろ過後にドラム缶を再利用する際の内袋利用について明記がなかった。業務連絡書を改訂して、内袋の使用を明記した。その後の再発はない。
3	3/22-8:20	2期1階 VTRシャワー油室 VTR分析タンク排気配管	VTR分析用タンクの始業点検中、分析用タンク1Cよりベントスクラバへ接続している配管の下部に油の少量の漏れを発見。	漏洩した液は分析用タンクのベント排気に含まれている油分で、油分中のPCB成分により配管にピンホールが生成したことによるものであった。 漏洩した液を拭き取り、排気配管の漏れ箇所を樹脂テープで補修した。その後の再発はない。 なお、本年11月の定期点検時に配管更新を予定している。

※「少量の漏れ」とはポタポタ程度の微量の漏洩をいう。

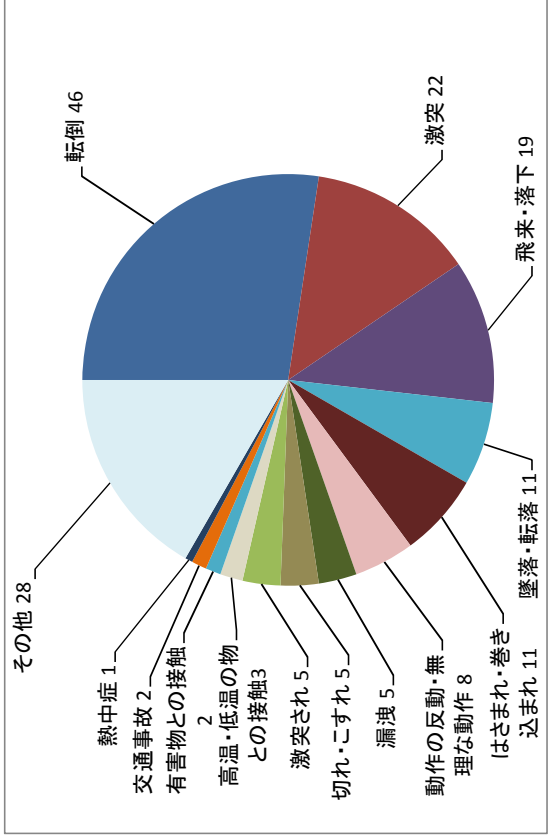
# ヒヤリハット件数（平成30年7月～令和元年6月）

年	H30						H31				R1		小計
月	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	
実体験	3	0	0	2	1	1	0	0	4	0	0	0	11
仮想	12	15	14	14	19	15	14	15	10	12	16	12	168

”実体験”は、提案者が現場で体験してヒヤリ・ハットした事象であり、”仮想”は、提案者が現場で、もしかしたら発生するのではないかと考えた事象。



実体験ヒヤリハット



仮想ヒヤリハット